

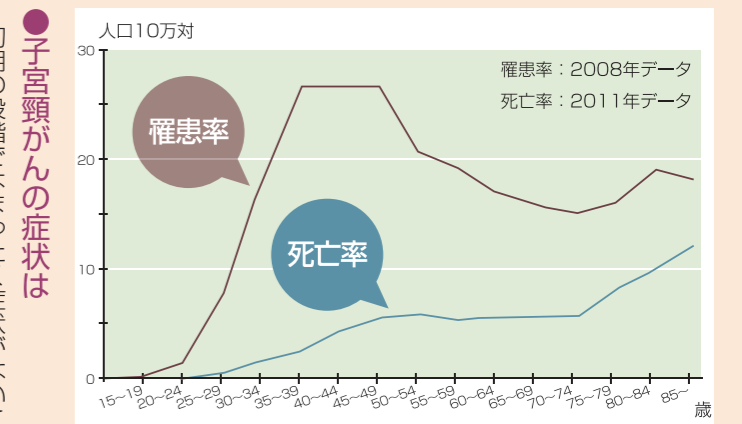
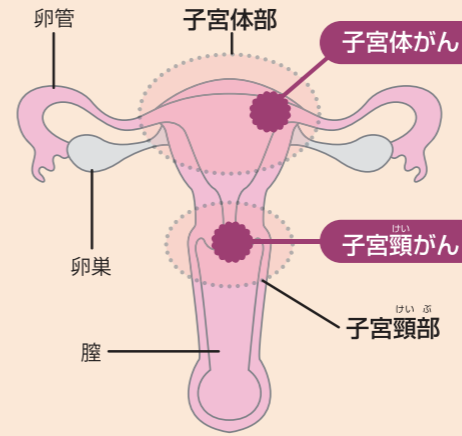
# 子宮頸がん予防は、定期健診がポイント

若い女性がかかるがんでは、乳がんに次いで多い子宮頸がん。その最大の原因がウイルス感染です。子宮頸がんは数年から数十年にわたって持続的にウイルス感染した後に起こります。定期健診を行えば、がんになる前の段階で発見・治療ができます。



**早期に発見すれば治療しやすい子宮頸がん**

●20～29歳の女性に急増中  
子宮頸がんは、子宮の入り口付近の子宮頸部にできるがん。進行すると、子宮や子宮のまわりの臓器を摘出しなければならなくなる場合がありますが、子宮の入り口付近に発生することが多いので、婦人科健診などで検査がしやすく、発見されやすいがんでもあります。早期に発見すれば、比較的治疗しやすく、予後も良いがんです。  
子宮頸がんには、粘膜表面に留まる上皮内がん、粘膜より深く広がる浸潤がんがあります。上皮内がんを含めた子宮頸がんの発生率は、50歳以上の中高年層では減少傾向にありますが、20～29歳では急激に増加しています。子宮頸がんにかかる人の数は、2008年の統計では年間約1万人ほどです。



## ●子宮頸がんの症状は

初期の段階ではまったく症状がないことがほとんどです。月経中以外や性行為の際に出血がある、普段と違うおりものが増えた、月経血の量が増えた、月経期間が長引いている、など、気になる症状があれば、早めに婦人科を受診しましょう。

## ●ヒトパピローウイルスが関係

子宮頸がんの発生の多くは、ヒトパピローウイルス（HPV）の感染によるものです。HPVは性交渉で感染し、子宮頸がんの患者さんの90%以上からHPVが検出されると報告されています。  
HPV感染自体は稀なことではなく、感染しても多くの場合は症状のないうちにHPVが排除されると考えられます。しかしHPVが排除されずに感染が続き、一部に子宮頸がんの前段階（前がん病変）や子宮頸がんが発生します。

## 子宮頸がん予防ワクチンの効果と安全性

●子宮頸がん予防ワクチンとは  
子宮頸がん予防ワクチンは、子宮頸がん全体の50～70%の原因とされる2種類のHPV（16型と18型）の持続感染に対して予防効果を持ちます。これまで、この2種類のウイルス感染や前がん病変を90%以上予防したと報告されています。ただし、子宮頸がん予防ワクチンは新しいワクチンであるため、がんそのものを予防する効果はまだ証明されていません。  
法に基づく子宮頸がん予防ワクチンの接種は、地域の実情に合わせて各市町村で実施しています。標準的な接種は、中学1年生になる年度に、一定の間隔をあけて3回実施します。

## ●気になる安全性は？

最近問題とされているのが、ワクチン接種後に起こる副作用です。マスメディアでも報道されたように、まれに呼吸困難などの重いアレルギーや慢性の痛みなどが生じることがあります。厚生労働省が子宮頸がん予防ワクチンの有効性と副作用の状況を検討したところ、定期接種の実施を中止するほどのリスクが高いとはいえないという結果が報告されています。そこで、「積極的な接種勧奨の一時差し控え」という措置がこの6月に発表されました。市区町村などは、接種を促す呼び掛けなどを行っていませんが、希望者は定期接種として接種を受けることが可能です。  
子宮頸がん予防ワクチンは、すべてのHPVに予防効果があるわけではない

## 定期健診が予防に効果あり

### ●婦人科健診を受けましょう

子宮頸がん検査は、科学的な方法によってがん検査では最も効果があると評価されています。定期的な健診で、がんになる前の異常を発見でき、がんになる前に治療できるからです。

日航健保では、18歳以上の被保険者・被扶養配偶者に対して婦人科健診費用の9割（上限20,000円）を補助しています。症状がなくても毎年婦人科健診を受けましょう。詳しくは健康診断のご案内や健保ホームページ（P15参照）をご覧ください。

### ●健診の流れ

医療機関ごとに若干の違いがありますが、概ね次のような流れで健診を行います。

#### ①問診

初潮年齢、生理の様子、妊娠・出産の有無、月経の状況、自覚症状の有無などについて聞きます。

#### ②内診

内診台上がり、子宮頸部の状態を目で見て確認（視診）し、膣鏡で子宮頸部の状態を観察。内診では、子宮の形、大きさ、位置、表面の状態、炎症の有無などを確認します。

#### ③細胞診

子宮頸部の表面から綿棒などで細胞を軽くなでるようにこすりとり、顕微鏡で調べます。

#### ④結果

医療機関によって異なりますが、細胞診の結果は2週間ほどでわかります。受診者の約1%で精密検査が必要となり、精密検査が必要な受診者の中でがんが発見されるのは10%弱。発見されたがんの60%以上は、粘膜の表面にごく一部だけ留まる上皮内がんなどで、ごく早期のがんで、大半が子宮を温存した治療が可能です。

#### 細胞診



綿棒で頸部の細胞をこすり取る

#### 内診



顕微鏡で診断



## 喫煙と子宮頸がん

喫煙は多くのがんの原因の一つとされていますが、子宮頸がんも例外ではありません。喫煙者の子宮頸がんリスクは、たばこを吸わない人の2.3倍と報告されています。これは、女性では肺がん（3.9倍）に次ぐ高さです。さらにHPVの感染が重なる、相乗的に発がんのリスクが高まるといわれています。喫煙者は、まずは禁煙を心がけましょう。

健康保険対象外の禁煙治療については、費用（受診料・薬代）の半額補助限度額は20,000円を補助します。詳しくは健保ホームページ（P15参照）をご覧ください。

厚生労働省HP  
http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou28/  
NPO法人 VPDを知って、子どもを守ろうの会  
http://www.know-vpd.jp/

